

## 資 料

- 中学生へのまちづくり講座資料
- (先進地参考資料) 神戸市・ガーデンシティ「舞多聞」
- (先進地参考資料) 横浜市・「東急田園都市線沿線モデル地区」
- (先進地参考資料) 柏市・「柏の葉国際キャンパスタウン」

## ■中学生へのまちづくり講座資料

### 宜野湾の『はごろも伝説』って

はごろも天女は、中山王察度のお母さん



宜野湾市立博物館のキャラクター『天女ちゃん』

### 『はごろも伝説』のあらすじ

日本全国にある、はごろも伝説は大たい同じストーリー



天から降りてきた天女が  
水浴び中に「はごろも」を隠  
される

天に帰れなくなつて、男と結  
婚して「子供」が生まれる

子供は立派な若者に成長し  
て、「偉い人」になる

若者は中国と交易して、  
色々な「文化」をもたらす

人々から信頼を得て、  
「中山王察度」となる

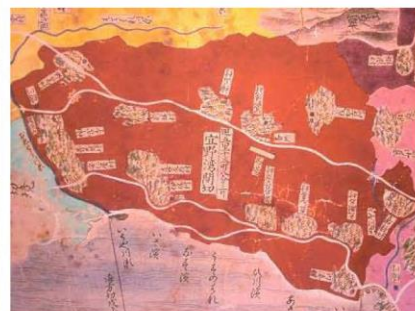
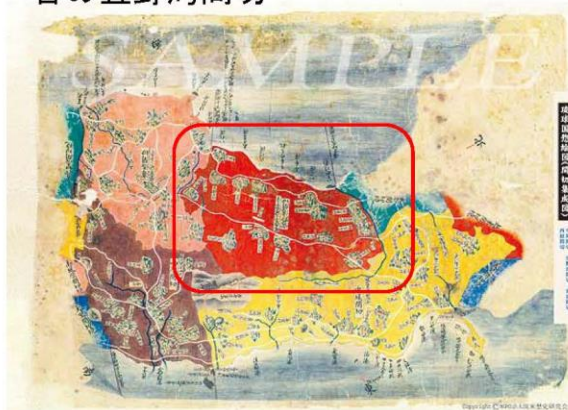
# 天女の息子が『中山王察度』

中国との貿易によって農具や、ハーリーなどもこの時代に伝わりました。



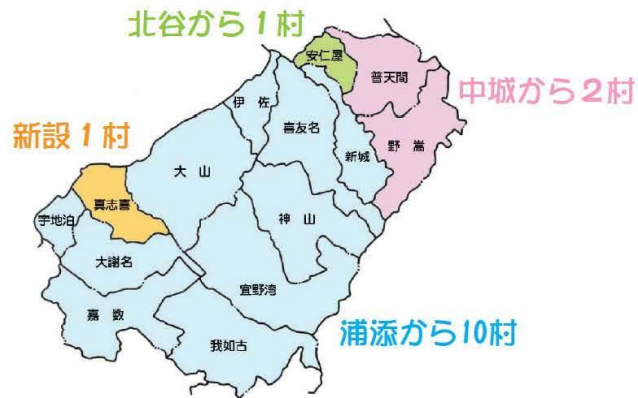
## まぎり 宜野湾間切ってなに？

昔の宜野湾間切



琉球国惣絵図(間切集成図)  
浦添・宜野湾・西原・中城

## まざり 宜野湾間切ってなに？



我如古(がねこ)・宜野湾(ぎのわん)・神山(かみやま)・大山(おおやま)・大謝名(おお  
じやな)・宇地泊(うちどまり)・喜友名(きゆうな)・新城(あらぐすく)・伊佐(いさ)・嘉数(か  
かず)・野嵩(のだけ)・普天間(ふてんま)・安仁屋(あにや)・真志喜(ましき)  
合計14の地域が「宜野湾間切」

## ごさんけい 普天間御参詣とは



普天間御参詣のジオラマ(宜野湾市立博物館)

ごさんけい  
**普天間御参詣とは**



第一回  
**琉球国王普天間御参詣  
 歴史絵巻行列**

平成25年  
**10月6日**  
 時間/15:00~  
 場所/中央通り(国道330号)

主催/普天間御参詣実行委員会 主幹/NPO法人普天間門前まちづくり推進会

普天間御参詣を再現した、琉球国王普天間御参詣 ~歴史絵巻行列~

ごさんけい  
**普天間御参詣とは**

普天間街道と宜野湾並松(ジノーンナンマチ)



# 普天間御参詣とは

首里城から普天間宮まで続く普天間街道



## 宜野湾村誕生！

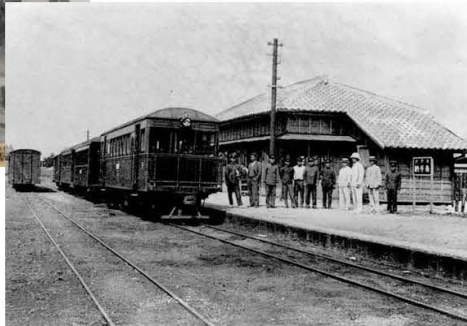
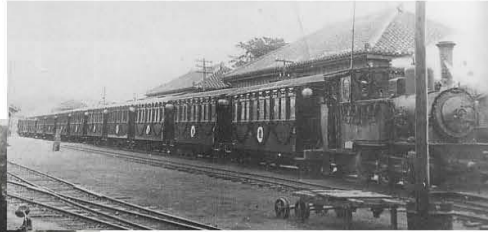


1943年、普天間村に

## 軽便鉄道



大山駅



嘉手納駅

## 宜野湾村誕生！



那覇駅



軽便鉄道  
車輪

那覇駅



## 激戦地となった宜野湾(沖縄戦)



沖縄本島に上陸する米軍



## 激戦地となった宜野湾(沖縄戦)



激戦地となった嘉数

嘉数高台公園の嘉数の塔、京都の塔







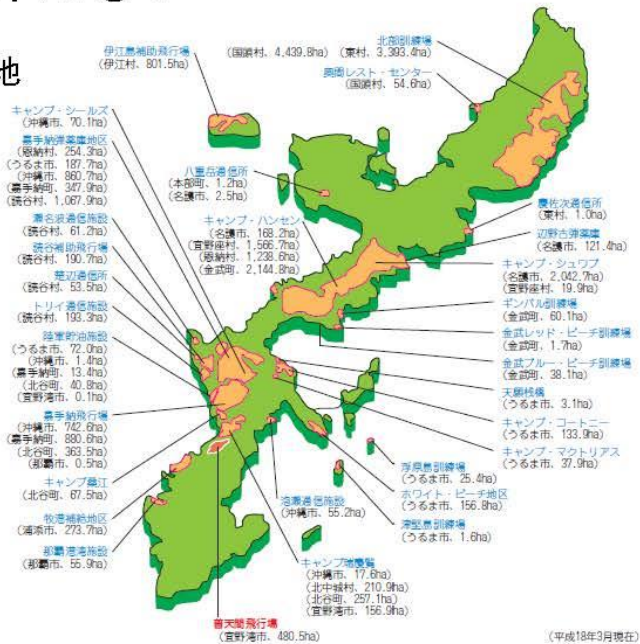
# 普天間以外にも！

## 宜野湾市の米軍基地



# 普天間以外にも！

## 沖縄県の米軍基地



## 沖縄返還後の宜野湾市



1962年 宜野湾市 誕生！



海浜公園

## 沖縄返還後の宜野湾市



市立グランド



コンベンション・センター



## 宜野湾の歴史を勉強し、普天間飛行場の跡地をみんなで考える「漫画」




はごろも天女

現在、作成中です！  
乞うご期待ください。



男子と女子

■神戸市・ガーデンシティ「舞多間」




UR都市機構


神戸芸術工科大学  
KOBÉ DESIGN UNIVERSITY


# ガーデンシティ 舞多間

## MAITAMON

<http://www.ur-net.go.jp/nagomilife/maitamon/mitsuike/index.html>










住むにつれて  
成長する  
「住まい」と  
「まち」













歴史を  
生み出すまち







自らのまちを  
自らの手で  
自らの住まいを  
自らの意思で  
つくる





今を生きる  
まち





笑顔の溢れた  
まち





Garden City MAITAMON

URBAN RENAISSANCE AGENCY+KOBÉ DESIGN UNIVERSITY

# Garden City MAITAMON

新しい郊外居住の形を目指す「ガーデンシティ舞多間」は、兵庫県神戸市垂水区にある旧舞子ゴルフ場（約 108ha）を、施行者の都市再生機構と神戸芸術工科大学との産学連携によって、神戸の震災復興を象徴する安全な住宅コミュニティの創造と地域への社会貢献である。計画人口約 8,400 人、計画戸数約 2,600 戸を予定している。

「ガーデンシティ舞多間」の第 1 工区目である「ガーデンシティ多間」みつけプロジェクトは、都市再生機構と神戸芸術工科大学、そして住民との連携が進められている宅地開発プロジェクトである。新しい郊外居住と持続可能な地域コミュニティづくりを目指すこのプロジェクトは、約 6ha の面積に、宅地 68 区画、緑地公園、街区公園、共同施設（コミュニティスペース）が配置される。

さらにみつけプロジェクトの計画手法を使用して、「みつけ南プロジェクト」（全 82 画地）の計画を行っている。ここでは、「グループ募集」を導入した。ここでの「コミュニティづくり」「ルールづくり」「すまいづくり」はみつけプロジェクトでの経験がいかされている。

また、ガーデンシティ舞多間の西端部に位置する、自然地形を活用した「てらいけプロジェクト」（約 10ha）を現在整備している。「みつけプロジェクト」「みつけ南プロジェクト」の経験をいかし継続的な住宅コミュニティの創造と日本の住宅が抱える課題の解決を目指している。

住まう人が自らのまちを誇りに思え、そして、その環境の価値を共有できるまちをつくれるか。次の世代を見据えた提案が、今後のまちづくりの目標である。

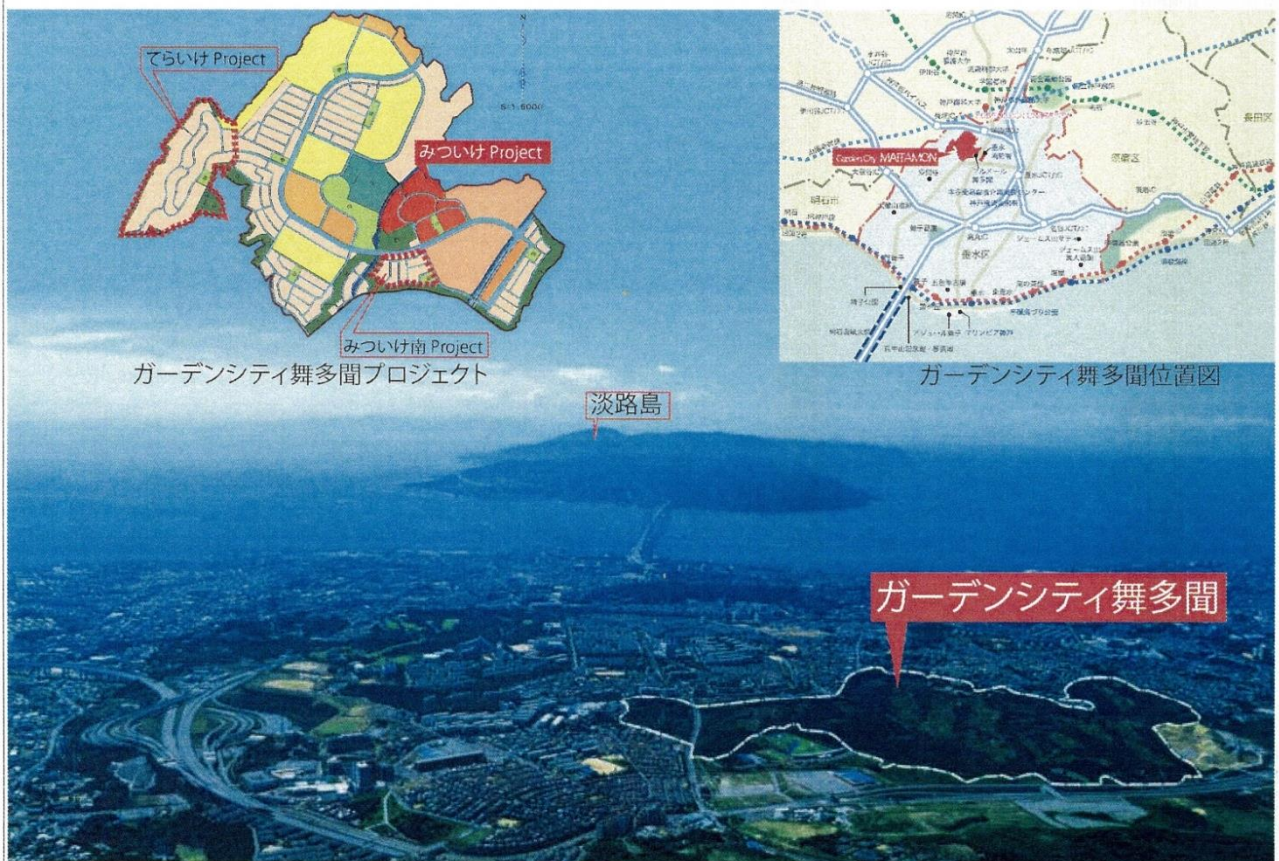
Garden City MAITAMON is a project to develop a new town in a suburban area, promoted through industry-university cooperation between Kobe Design University (KDU) and the Urban Renaissance Agency (UR), the town developer. The project aims to redevelop the former Maiko Golf Course (approx. 108 ha), located in Tarumi-ku, Kobe, which was severely afflicted by the Great Hanshin-Awaji Earthquake, into a safe residential community representative of Kobe's reconstruction, thereby making a regional contribution. The new town will accommodate approximately 8,400 residents in 2,600 households.

The area developed in the first phase within The Garden City MAITAMON Project is named MITSUIKE.

The MITSUIKE project is a residential development project that has been implemented through collaboration between KDU, UR and the residents.

The town planning methods employed by the MITSUIKE Project which introduced the group application system were also applied to implement the MITSUIKE Minami Project (for a total of 82 lots). The MITSUIKE Minami project is making use of the experience obtained through the MITSUIKE project in community building, rule development and residential design.

Furthermore, the project to develop TERAIKE Community (approx. 10 ha), located in the westernmost part of the Garden City MAITAMON, is currently under way, making effective use of natural geographic features. Capitalizing on the experience of the MITSUIKE Project and the MITSUIKE MINAMI Project, the TERAIKE Project aims to create a sustainable residential community and to resolve the aforementioned challenges confronting Japanese housing.



## 「新・郊外居住宣言」

21世紀を迎えて、宅地の大量供給の時代は去り、都心居住の傾向が進んできていますが、郊外居住のニーズは相変わらず根強いものがあります。21世紀は、郊外ならではの魅力を評価し積極的に選択するという時代になってきています。

都市機構では、新しい郊外の暮らしについて、21世紀を中長期的に見据え、幅広い視点から検討しました。『新・郊外居住』宣言とは、これらの成果をもとに魅力ある郊外居住のあり方とその実現のための取組みの方向性が提言としてとりまとめられたものです。

## 提言4 環境に負荷を与えない生活を営む

郊外には豊富な環境資源があるので、地球環境への相当の貢献が期待されています。

国内の意識高揚を先導し、海外への訴求効果を高めるためにも、地球環境問題に意識の高い居住者と協働して、低負荷循環型の生活を実現すべきと考えます。



## 提言1 日本の美しい風景を再生し創造する

21世紀の郊外のまちづくりは、居住者の自慢になり、アイデンティティになる地域固有の美しい風景を、再生し、また、創造し、必要に応じて保全していくべきであると考えます。



## 提言5 自分のまちを自分でつくる・育てる

事業者サイドから提供される規格品ではなく、居住者自らデザインするオリジナルなものであるべきと考えます。



## 提言2 暮らしの中心に出会いの空間がある

まちを育てていくための装置として、居住者の共有の空間を求心的に配置して、人々の出会いの空間のシンボルやランドマークとして機能させることが有効であると考えます。



## 提言6 まちの世話人がいる

まちを育てるためには、居住者の主体的・持続的な関与と、緩やかな関係でのコミュニティの形成が前提となりますが、居住者間の意見を調整しながら行うには、専門的な知識が必要です。



## 提言3 広い庭があるゆとりの敷地に住む

暮らしを支える基本としての「家庭」=「家」+「庭」を重視するべきであると考えます。

空間的なゆとりは、精神的なゆとりを引き出します。また、広い庭は家とまちの緩やかな関係を演出し、美しい街並みを実現します。



## 提言7 豊かな生活を手頃な価格で実現する

ライフステージに応じた居住環境を実現するために、容易に住み替えができるシステムの構築が必要です。

また、相互扶助的な取り組み等により、総合的に生活コストを低減することも必要です。



## 定期借地権制度について

ガーデンシティ舞多間みつけでは、定期借地権制度を採用しています。定期借地権制度は、一定の契約期間（50年以上）を定めて土地を借りる制度です。都市再生機構が造成した宅地に、機構と借地人で定期借地権設定契約を締結し、宅地に自ら居住するための住宅を建設し継続して居住する制度です。

定期借地権のメリットとしては、「少ない資金でマイホームが建てられる」「借地期間中の相続が可能」などが挙げられます。

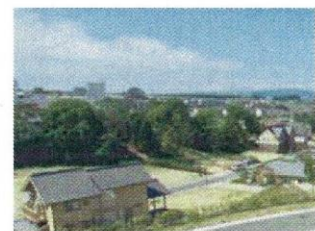
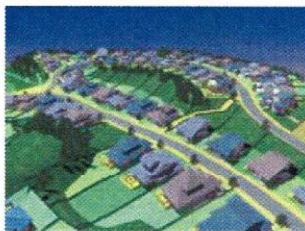
尚、定期借地権設定期間の満了時には、各自の費用負担で建物等を収去のうえ、当該宅地を更地にして機構へ返還します。

## 地区名「ガーデンシティ舞多間」の由来

歴史的にも由緒のある「多間」の地名に、「舞子」の「舞(まい)」を組み合わせることにより、同音の英語「MY(マイ)」から「我がまち」の意味を込めると共に、字の持つ意味と語感の響きから「華やかさ」を表現しています。

また、「舞多間」の冠に、神戸芸術工科大学 齊木崇人教授の提言である「新・田園都市構想」より、「ガーデンシティ(田園都市)」を用いることで、その取り組みを前面に打ち出しています。

地区内の「みつけ」や「てらいけ」は、旧字名「三ツ池」「寺池」に因んでいます。



## ■ ガーデンシティ舞多間・みついけプロジェクトの3つのコンセプト

みついけプロジェクトの実践にあたり、2002年に都市再生機構が提言した「新・郊外居住」と、新田園都市国際会議2001でまとめられた「新・田園都市構想」の内容に基づき、1.住む人が誇りを持てる魅力のある「スペースデザイン」、2.住まう人々が居住環境に関する価値観を共有できる「コミュニティづくり」、3.魅力ある空間デザインと住まう人々の暮らしを持続・向上させるための「コミュニティマネジメント」としてまとめた。

このコンセプトによって、みついけプロジェクトは「自立した持続可能な地域コミュニティの実現」を目指した。

### 1 住む人が誇りを持てる魅力のある「スペースデザイン」

神戸市内の伝統的な集落・民家のサーベイ、計画地（旧舞子ゴルフ場）の現地調査（植生・地形・水系）といったフィールドワークを行い、さらに東アジアの伝統的な風水の環境観に基づいた、土地改変の少ない造成計画、斜面緑地や溜め池の保全、地形に沿った道路計画、里山を生かした公園計画、多様な敷地条件・面積を持つ宅地計画、敷地と一体化した住宅計画、近隣商業施設斜面緑地の保全・活用モデルの提案、さらに、セットバックによる民地内歩道、一般定期借地権制度の活用、を実践した。さらに、公開講座を受けて、ソーラーシステムや雨水貯留施設を設置しており、環境に配慮したスペースデザインの提案を行った。



「ガーデンシティ舞多間」みついけプロジェクトのCG

### 2 住まう人々が居住環境に関する価値観を共有できる「コミュニティづくり」

#### 1. アンケート調査から「舞多間倶楽部」結成まで

みついけプロジェクトで提案したコミュニティづくりのニーズを確認するために、舞多間の計画地周辺の約4万5千世帯に、「新しい住まい方」を提案するコンセプトとそれらをビジュアル化したものを記載したパンフレットを同封したアンケートを配布した。約480世帯からの回答があり、みついけプロジェクトのニーズが把握できた。

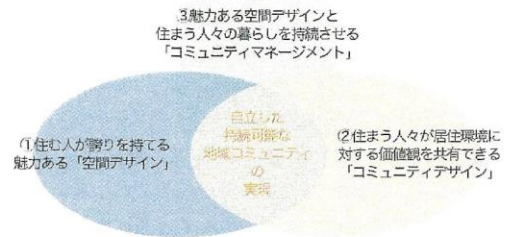
その後、アンケートの回答者を主な構成員とした「舞多間倶楽部」を結成し、「舞多間ホームページ」を開設した。2010年3月での会員数は、約1,500世帯を数えている。

#### 2. 公開講座・ワークショップの開催

神戸芸術工科大学による、「ガーデンシティ舞多間」公開講座を継続的に開催。舞多間倶楽部会員の居住環境に対する価値観の共有や、参加者同士のコミュニケーションの促進を目的としている。テーマは「住まい」「コミュニティ」「環境」の3項目を基本とし、参加者が各テーマを実際のコミュニティづくりとリンクさせながら学ぶことができるプログラムとなっている。

また、現地ワークショップを開催。これは現地で行われる下草刈りや樹木の移植等を通じて、みついけプロジェクトが提案する「環境共生型の住まいと暮らし」を実体験してもらうこと、将来コミュニティを形成する参加者間のコミュニケーションを図ることを目的とした。

### 3つのコンセプト



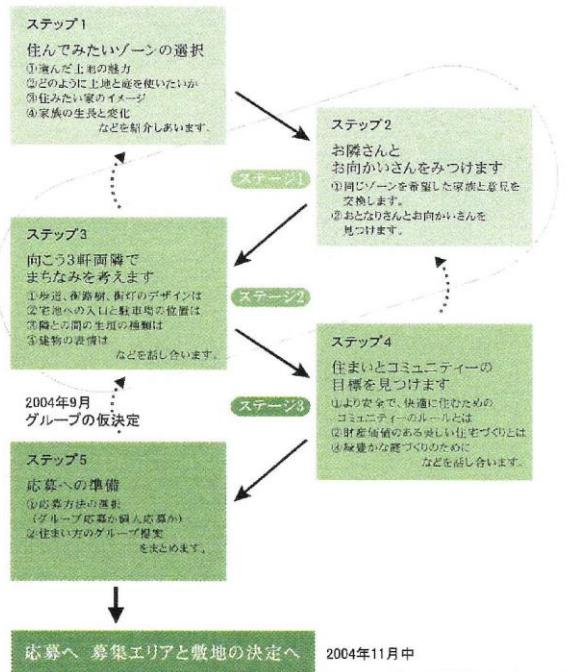
「ガーデンシティ舞多間」公開講座と現地ワークショップ

### 3. グループ向け募集方式の採用

#### ①グループ向け募集とグループワークショップ

みついけプロジェクトの全68画地は、7つのコミュニティから構成されている。各コミュニティの5～8画地、計40画地は事前にグループを形成し、その単位で応募をする「グループ向け募集」方式が採用された。

これは、みついけプロジェクトでのワークショップにより共有意識を持った持続可能なコミュニティを育成したいという観点から、グループ向け募集方式が採用された。残りの28画地は、従来通りの個人向け募集が行われた。グループワークショップは40画地8グループのコミュニティ形成促進のために行われた。参加者は希望するグループに分かれ、住まい・コミュニティ・環境について意見を交換し合った。ここでの成果を「グループ協定書」としてまとめ、グループの代表者を定めた上で応募時に提出することが、各グループに求められた。



2004年11月中  
グループ向け募集のプロセス



#### 4. コミュニティワークショップを通じたみつけプロジェクトのルールづくり

##### ① 宅地引渡しまでのコミュニティワークショップ

入居予定者は宅地引渡しまでの約1年間、約2ヶ月に1回開催される「みつけコミュニティワークショップ」の参加が求められた。持続可能な地域コミュニティを実現するために、住宅・まちなみ・自然環境に関して学習しながら、まちのルールを構築することと、入居までの参加者のコミュニケーションを図ることを主な目的とした。

各コミュニティに分かれ、各々でルールづくりに関する話し合いをワークショップ形式で行った。話し合い終了後は全入居予定者が集合し、各コミュニティの代表者により、個別のワークショップで話し合われた内容の紹介を行った。

##### ② まちづくりルールの決定

約9ヶ月間の協議を経たまちづくりルールの検討によって、「建築協定」「緑地協定」が入居予定者全員の合意によって決定した。

##### a 建築協定の内容

住宅の位置は、道路や隣地境界から壁面を後退すること、道路からのセットバック部は構造物を設置しないこと、地形を活かすため、地盤の高さを変更しないこと、立体駐車場は設置できないこと、屋根付きカーポートを設置する場合は、周辺環境との調和を図ること、屋外に設置される設備機器は道路などから見えにくくすること、屋外に自動販売機は設置できないことが決定した。

##### b 緑地協定の内容

緑化に関しては、既存林を保全すること、樹木・芝生等を積極的に植えること、隣地との境界は可能な限りオープンにするが、防犯面・安全面等から仕切りを設置する場合は、生垣または透視可能なフェンスとすることが決まった。維持管理に関しても、敷地内の既存樹木や周辺の公園や緑地など、運営委員会を中心とした住民全員により、良好に維持管理することが決定した。

### 3 魅力ある空間デザインと住まう人々の暮らしを持続・向上させるための「コミュニティマネジメント」

#### 1. まちづくりアドバイザーの派遣

みつけプロジェクトは、「まちづくりアドバイザー」の派遣を神戸市に依頼した。アドバイザーは、住民が住まいづくりを計画する際にお隣同士の住宅や窓の位置、隣地境界付近の生垣やフェンスの仕様、通りに面した前庭の一体的なデザインのアドバイスなどを行った。

#### 2. 舞多間建築ネットワークと住み替えネットワーク

舞多間に住まう人たちが建築家との住まいづくりを行う際に、神戸芸術工科大学とコーディネートの専門家が、建築家選びから入居までをサポートするプログラムである「舞多間建築ネットワーク」を構築した。建築ネットワークでは定期的にミーティングを開催し、今後の舞多間での建築家の役割に関するディスカッションや、建築家同士のネットワークづくりを行っている。

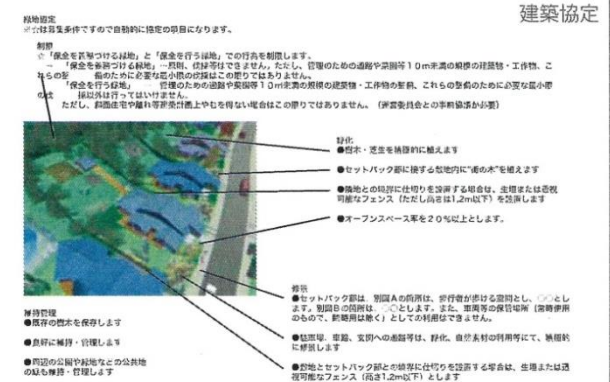
さらに、不動産の専門家の協力を得て、「舞多間住み替えネットワーク」を開始した。これは舞多間の入居予定者に対して、現在の住まいから舞多間へのスムーズな住み替えをサポートすることを目的としている。具体的には、現在の住まいの売却時期や、依頼する不動産会社の選択等に関するアドバイスを行っている。また、既存のニュータウンから転居する場合、現在居住している土地を隣の住民に定期借地を提供することも提案している。



みつけコミュニティワークショップ



建築協定



緑地協定

#### 3. コミュニティワークショップ

##### a 公園づくりのワークショップ（舞多間みつけ公園）

みつけの中心部に位置する街区公園（舞多間みつけ公園）のデザイン計画や管理計画を、住民の意見を採り入れながら行う、「公園づくりワークショップ」を実践した。この公園敷地は、ゴルフ場時代からの斜面や緑地を残し、小高い丘を持つ地形になっている（写真9）。

##### b 都市計画緑地（学園南緑地）

みつけの南西部にある、兵庫県環境アセスメントにより保全が定められた溜め池と周辺緑地は、都市計画緑地として、一部保全エリアを確保し、整備されている。街区公園と都市計画緑地は、後述の緑地管理や緑化を考える「グリーンネットワーク」や、エコロジカルな生活を目指す住民組織「エコネットワーク（みつけエコ倶楽部）」の拠点として活用されている。



コミュニティワークショップと学園南緑地

## ■横浜市・東急田園都市線沿線モデル地区

地域の皆さまと一緒に、  
住民が生き生きと快適に暮らしていける  
新しい郊外住宅地の実現を目指します。



横浜市



東急電鉄

1960年代に始まった高度経済成長に合わせ、都市へ集中する労働人口の受け皿として、郊外住宅地は大都市近郊に開発されてきました。一般的に郊外住宅地は、都心へのアクセスが良く、自然環境に優れ、鉄道駅を中心として整備された都市基盤と良好な環境の住宅地、生活を支える商業施設や子どもたちのための教育環境も整っています。しかし、そんな大都市近郊の郊外住宅地が、いま危機を迎えています。わが国が迎える戦後初めての人口減少社会、そして世界中のどこの国も経験していない超高齢社会がやってきます。経済の発展と都市への人口集中、都市の拡大を前提に開発された郊外住宅地、その都市基盤や生活インフラは、都心へ通勤する現役世代が住まい、暮らすことを中心につくられてきました。若くて元気で、きれいで安全な郊外、そんなイメージが強かった郊外住宅地も、住民の高齢化と建物などの老朽化、そしてライフスタイルや住まい意識の多様化による若い世代の郊外離れなどに伴い、まちが活気を失い、衰退してしまうのではないかと危惧されています。



上記の問題意識から、横浜市と東急電鉄は、2011年に「郊外住宅地とコミュニティのあり方研究会」を立ち上げ、郊外住宅地における社会課題解決に向けた検討を進めてきました。検討を進めた結果、郊外住宅地を持続発展させていくためには、高齢者が安心して暮らし続けられる仕組みをつくり、同時に若い世代を惹きつけていく新たな魅力を再構築するハード・ソフト両面の施策を実現していく必要があるという結論に至りました。

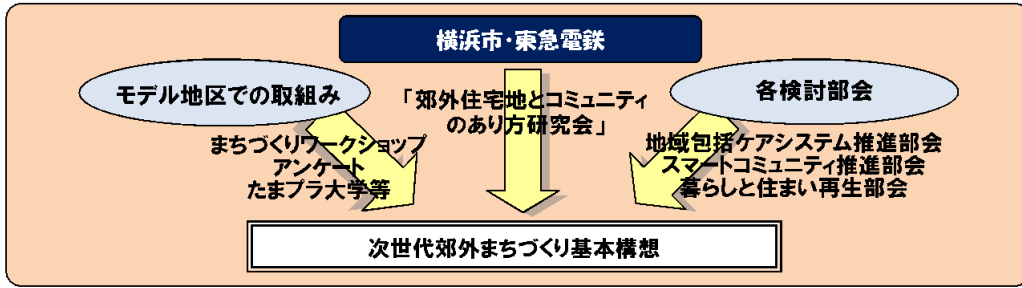
これらの議論を踏まえ、2012年4月、横浜市と東急電鉄は「既存のまち」の暮らしやコミュニティを重視しつつ、新たな発想でこれからの時代に合った郊外住宅地に再生させていく「次世代郊外まちづくり」の取り組みを官民共同で推進することに合意し、包括協定を締結しました。



# ① 「次世代郊外まちづくり基本構想」の目的

## ■「基本構想」の目的■

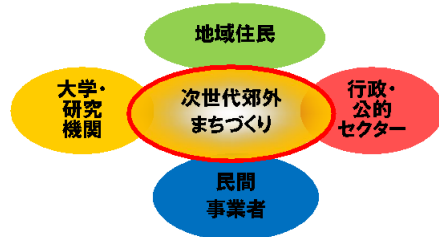
- ・「たまプラーザ駅北側地区」をモデルに横浜市内の東急田園都市線沿線の郊外住宅地において、「産・学・官・民」が連携して、良好な住宅地とコミュニティの持続・再生を目指すまちづくりに取り組んでいくためのビジョンとして提示することを目的としています。
- ・「基本構想」は、モデル地区における討議や検討成果などを2013年度版として取りまとめました。
- ・今後、まちづくりの様々な主体と基本構想を共有し、連携して取り組んでいくとともに、「成長する構想」として位置づけ、東急田園都市線沿線の他の地域にも取り組みを広げていながら、その成果や課題などを「基本構想」に反映させ、見直していきます。



## ■基本理念■

- 人、暮らし、コミュニティを最重要視した「既存のまち」の持続と再生
- まちづくりの施策、事業の推進を通じた人口減少社会、高齢社会における諸分野の課題解決
- 建物や都市機能の更新、再生と郊外住宅地を持続させていくための「仕組みづくり」の双方を一体化したまちづくり
- 産・学・官・民の連携・共同による実践

## 産・学・官・民の四者連携による取組



## ■モデル地区(たまプラーザ駅北側地区)■

	世帯数 (世帯)	人口 (人)	高齢化 率(%)	面積 (ha)
美しが丘1丁目	2,332	4,803	22.5	32.9
美しが丘2丁目	3,057	7,372	7.5	50.0
美しが丘3丁目	1,106	2,665	28.7	37.3
合計	6,495	14,840	16.1	120.2

出典：なるほどあおほ 2012 データで見る青葉区

④ 次世代郊外まちづくり基本構想 「目指すまちの将来像」「取り組み姿勢」



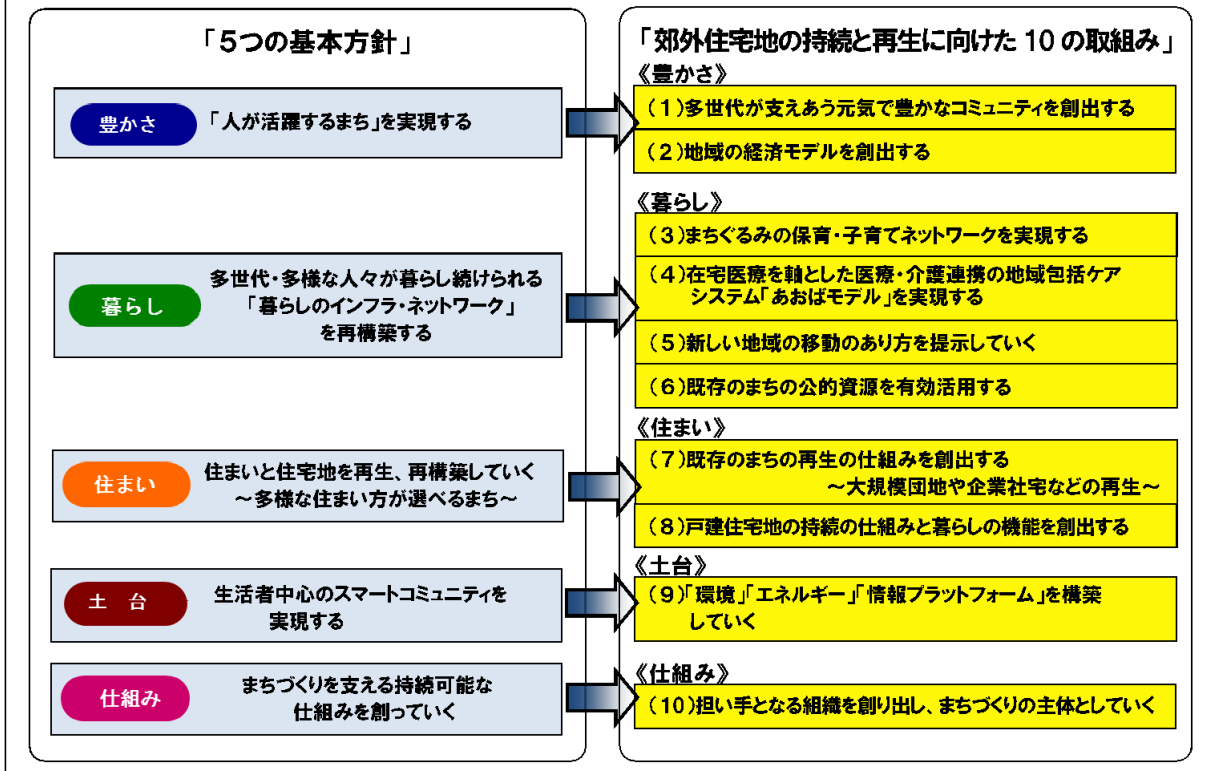
**コミュニティ・リビング・モデル**  
 ～暮らしと住まいのコンセプト～

コミュニティ・リビングは、コミュニティ、交流、医療、介護、保育や子育て支援、教育、環境、エネルギー、交通・移動、防災、さらには就労といった様々なまちの機能と、暮らしの基盤である「住まい」を密接に統合させていくことによって、超高齢化社会、人口減少社会の郊外住宅地の暮らしを支えていくことを目指しています。

また、次世代の郊外住宅地を、ファミリー層だけではない多様な住民が暮らし、分譲住宅(戸建住宅、マンション)だけではない多様な住宅と住まい方(ライフスタイル)があるまちにしていくことによって、多世代かつ多様な住民が住まい、暮らし、交流し、働き、活躍するまちにしていくことを目指していきます。



⑤ 次世代郊外まちづくり基本構想 「5つの基本方針」「郊外住宅地の持続と再生に向けた10の取組み」



⑥ 基本構想の実現に向けた第1歩 — 次世代郊外まちづくりリーディング・プロジェクト(2013) —

1 住民創発プロジェクト — シビックプライドプロジェクト —	10の取組(1)
2 住民の活動を支える仕組みと場づくり	10の取組(10)
3 家庭の節電プロジェクトとエコ診断	10の取組(9)
4 まちぐるみの保育・子育てネットワークづくり	10の取組(3)
5 地域包括ケアシステム「あおばモデル」パイロットプロジェクト	10の取組(4)
6 暮らしと住まいのグランドデザイン(素案)の策定	10の取組(7)
7 「コミュニティ・リビング」モデル・プロジェクト — 企業社宅などの土地利用転換時における土地利用誘導 —	10の取組(7)
8 「次世代郊外まちづくり」建築性能推奨スペック策定 — 建物や施設に求められる性能や機能、建築推奨指針づくり —	10の取組(7)

# ■ 柏市・柏の葉国際キャンパスタウン

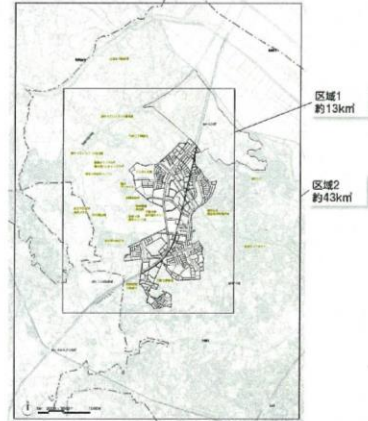
## 構想の目的

我が国においては、人口減少や少子高齢化、環境・健康・防犯・防災、経済活力などの様々な問題の顕在化に加え、ライフスタイルの多様化などによる街の居住者・利用者のニーズの変化に対応した、新たな都市像の確立が求められている。

本構想が対象とする柏の葉地域は、大学や国等の公的研究機関、多くの企業や住宅等が立地し、都市に関する諸問題への対応はもろろんのこと、公・民・学が連携した先端的な都市づくりが可能な非常に高いポテンシャルを持つことから、世界水準の都市づくりを先導するモデルとしての役割を担っていると言える。本地域ではこれまでも、「環境・健康・創造・交流の街」をコンセプトとして、公・民・学の連携により、まちづくりが進められてきた。本構想は、これら現在までの計画や検討結果、まちづくりの成果、また2006年度の基礎調査を踏まえ、地域の関係者である千葉県・柏市、大学、民間企業、市民・NPO等が連携・協働し、先端的な都市づくりを具体的に実践するための構想として策定するものである。

また、この構想は、千葉県、柏市、東京大学、千葉大学の共同調査で作成しており、新たな地域ビジョンに基づく新しい政策テーマを先取りした構想であり、現在の法制度や政策を超えた提案も含まれている。そのため、この構想の実現にあたっては、各団体内部での更なる検討や関係機関との調整を行い、制度の改善や上位計画へのフィードバック、フォローアップ、そしてこの構想の見直しも含めて運用していくことが必要である。

## 対象区域



※区域1を主な対象とするが、広域的な考え方が必要なのは区域2を対象として定める

## 目標と方針

### 我が国における都市づくりの潮流

- ・人口減少
- ・縮小社会対応
- ・少子高齢化対応
- ・ユニバーサルデザインの都市づくり
- ・地球環境問題への対応
- ・生活環境・健康へのニーズの高まり
- ・市民参加や地域活動の高まり
- ・自由時間拡大に伴うライフスタイルの多様化
- ・防犯・防災に対する意識の高まり
- ・まちづくり環境教育の普及と人材教育
- ・スパイラルアップによる計画評価や次計画・事業への反映向上

### 世界の先端都市づくりの潮流

- ・サステナブルな都市づくり
- ・コンパクトな都市形態、用途の混合、適切な街路計画、公共交通の促進や低負荷型交通、環境コントロール、歴史文化遺産の保全活用、適正な開発容量と開発速度
- ・地域性への配慮と多様な表情
- ・適度なスケール
- ・水準の高い都市経営・地域管理
- ・高質な公共空間デザイン
- ・近隣住民組織を中心とした生活の質的向上(住民自治・住民管理)
- ・文化による都市経済戦略
- ・「間にある都市」や「縮小都市」での対策

### 地区の特性と課題

- ・国際キャンパスタウンのアイデンティティの創出
- ・当面の人口増加対応(小学校建設等)と長期的な人口減少対応
- ・急激な開発と地域との共生
- ・豊かな緑とオープンスペースの保全活用
- ・貴重な農地や樹林地の活用
- ・広域交通の利便性
- ・地域内交通の利便性向上
- ・複数の大学の活用と連携
- ・がんセンター、科医研、東電テクノプラザ等の先行施設の活用
- ・土地利用計画の見直しを含めた検討の必要性

## 理念 柏の葉国際キャンパスタウン II 公民学連携による国際学術研究都市次世代環境都市

- |     |   |
|-----|---|
| 目標1 | <b>環境と共生する田園都市づくり</b><br>脱炭素社会モデルとなる緑地保全や持続型開発による「環境空間」と市民や企業の「環境行動」を誘発する       |
| 目標2 | <b>創造的な産業空間と文化空間の醸成</b><br>TX沿線の知の集合を生かし、高度な新産業の育成と創造産業の集積を図る                   |
| 目標3 | <b>国際的な学術空間と教育空間の形成</b><br>世界をリードする研究機能と地域に開かれた学術空間が街に展開する新たな国際学術都市のスタイルを確立する   |
| 目標4 | <b>サステナブルな移動交通システム</b><br>自転車や公共交通を中心に地球と人に優しい移動環境を整備する次世代交通の総合的な実験成果を展開する      |
| 目標5 | <b>キャンパスリンクによる柏の葉スタイルの創出</b><br>環境に優しく健康に暮らす柏の葉スタイル、また豊かな交流や文化芸術を創造する           |
| 目標6 | <b>エリアマネジメントの実施</b><br>安全で快適な環境と地域の価値を維持し向上させる地域経営組織を公民学連携で設立する                 |
| 目標7 | <b>質の高い都市空間のデザイン</b><br>先進の環境空間計画とデザインマネジメントにより都市と生活の質を高める“いい街がいい人(研究者、生活者)を呼ぶ” |
| 目標8 | <b>イノベーション・フィールド都市</b><br>世界の最先端の技術や文化が展開する都市としてスパイラルアップする                      |

# 目標 1

## 環境と共生する田園都市づくり

脱炭素社会モデルとなる緑地保全や持続型開発による『環境空間』と市民や企業の『環境行動』を誘発する

### 方針 1

#### 『緑地ネットワーク』を保全し強化する 緑被率40%を維持

地域で育まれてきた豊かな自然環境を継承した環境共生型の都市を実現するため、地域を取り囲む水系をつなぎとめ、生態環境の軸を保全、創出する。さらに地形や緑、農地などを重要な資源として保全し、それらをつなぐ緑のネットワークを形成、強化する。

#### 重点 施策

- |                            |   |
|----------------------------|---|
| 1)「利根川水系緑の回廊」と「柏の葉緑の回廊」を保全 | —— 緑地の保全と街路樹や公園緑地、開発内緑地の創出により、緑の骨格空間の形成 |
| 2)自然的な緑地や水系を繋ぐ「生態系緑地」を創出   | —— 自然緑地の保全に、税減免等のインセンティブ制度を創設           |
| 3)緑地や農地の「保全活用システム」を整備      | —— 農業を生かす特徴ある区画整理や宅地開発、菜園付き住宅の供給        |

### 方針 2

#### 持続性の高い開発や建築の『柏モデル』を普及する 街区の緑化率25%、CO2削減35%を達成

環境問題がグローバル化しつつある中で、最先端の環境技術を取り入れた環境負荷の小さな開発や建築により、従来型開発と比較してCO2の35%削減した脱炭素社会モデルとなる、持続性の高い環境共生型都市形成を「柏モデル」として普及し、環境空間を形成する。

#### 重点 施策

- |                                  |                                   |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| 1)街区と建築の「高効率化と長寿命化」              | —— 自然エネルギー利用とマイクログリッド*の展開         |
| 2)「環境技術の複合利用」により、2030年には35%以上の削減 | —— 柏の葉地域、駅前地区の開発においてCO2削減モデルを先行実施 |
| 3)柏独自の「環境まちづくりガイドライン」の運用         | —— 中小規模の開発・建築の規制と誘導、インセンティブの活用    |
| 4)サステナブルキャンパスの実現                 | —— 大学キャンパスにおけるCO2削減モデルの実施         |

\*マイクログリッド：様々な新エネルギーを組み合わせ、IT技術を活用し制御・運用し、効率が高く安定した電力・熱供給を行うシステム

### 方針 3

#### 市民生活を環境共生型に改める

環境都市の実現のために、市民のライフスタイルにおける意識付けから、身近な取り組みや地域の環境保全活動の充実が求められる。市民や企業の環境行動を普及・促進し、活動を支援することにより、市民に永く愛され、誇れる田園都市を実現する。

#### 重点 施策

- |                               |                              |
|-------------------------------|------------------------------|
| 1)「エコ・デザイン・ツーリズム」による環境への関心や理解 | —— エコ・デザイン・ツーリズムによる環境意識の普及拡大 |
| 2)「エコ・ポイント」の地域全体への普及と循環を促進    | —— 地域民間企業との連携によるエコポイントの導入    |

#### ■柏の葉地域の緑被率

計画的な緑地の保全と創出により、エリアの現状の緑被率(\*)を踏まえた、緑被率約40%を維持する。

#### 現在の柏の葉地域の緑被率

約45%

※緑被率=樹林地、農地や公園、民地内の緑化部分等を緑被地として算入。

#### 緑被率の計算

- 右図の範囲を仮に設定
- 航空写真より緑被地(樹林地、農地、公園等)の色を抽出(右図)。
- 全体の画素数と、抽出した緑被地部分の画素数の割合を、画像処理ソフトにより計算。



図：柏の葉の緑

#### ■緑地ネットワーク形成の考え方

以下の考え方のもと、緑地ネットワークを形成する。

- 広域的な骨格としての「利根川水系緑の回廊」の保全・形成  
柏の葉地域を囲む利根川等の水系と斜面林等からなる豊かな緑を、既存緑地、農地や水辺などの維持・保全と連環性の拡充によってつなぎとめ、利根川水系緑の回廊を形成
- 柏の葉の緑のコアを連環させ、「柏の葉緑の回廊」の保全・形成  
柏の葉の中心部で緑のコアを形成している、大学や柏の葉公園、こんぶくろ池等緑豊かな公共施設や、豊かな緑と農地が残る正連寺等を結び「柏の葉緑の回廊」を位置づけ、緑の保全とつながりの強化
- 「利根川水系緑の回廊」、「柏の葉緑の回廊」を繋ぐ緑の形成
  - 地域に連環する、質の高い、まとまった農地、樹林地等の保全  
【区画整理地外】—原則として緑の保全  
【区画整理地内】—緑や農地を生かした区画整理を実施
  - 道路、地形、地域資源を骨格として緑を連結  
【都市計画道路】—計画道路を緑の骨格と捉え、道路自体の環境形成、及び沿道公共施設等のオープンスペースの整備活用、沿道環境のコントロール
  - 【斜面緑地環境の再生】—地形を手がかりとし、谷津田沿いにかつてあった斜面緑地を地域の記憶として再生するコントロールにより、谷筋の緑によるネットワークの形成
  - 【野鳥土手】—ネットワークを形成する際の手がかりとしてネットワークに組み込み、資源として保全
  - 緑化環境コントロールにより緑を拡大  
環境コントロールによる緑地の拡大によって、緑を拡大し生態豊かな環境の形成

# 目標 4

## サステナブルな移動交通システム

自転車や公共交通を中心に地球と人に優しい移動環境を整備する  
次世代交通の総合的な実験成果を展開する

### 方針 1

#### 世界の環境交通モデルとなる移動のシステムを整える

持続可能な環境型都市交通の先進的なモデルとして、TOD（公共交通志向型都市開発）の理念を基礎とした交通体系を組み立てる。また、柏駅周辺と機能的役割分担のもと連携し、都市拠点性の強化を図るため両者を結び都市交通軸の形成を図る。

#### 重点施策

- 1) TOD推進地区として位置づけ、新しい移動システムの実証実験と導入促進
  - トランジットモール\*や自転車道、第三代自動車への対応など道路空間再編
- 2) 柏の葉地域と柏駅地域の2つのコアを結ぶ交通を整備
  - LRTの実験線敷設やオンデマンドバス実験の成果を生かした交通システム、柏と柏の葉を結ぶ柏シンボル道路の検討

\*トランジットモール：公共交通機関だけが通行できるようにした歩行者専用の道路

### 方針 2

#### 歩行者と自転車の楽しい移動を可能とするネットワークをつくる 『自転車分担率の10%増加』

持続可能な環境都市を実現するため、環境負荷の小さな自転車の最大限の活用と、歩くための環境の充実を図る。特に柏の葉エリアが自転車利用に適した立地条件であることを活かし、自転車の利用しやすい環境整備と利用の仕組みを確立、自転車利用の普及促進を図る。

#### 重点施策

- 1) 全ての幹線道路への自転車レーン設置などネットワーク整備
  - 区画整理区域内道路への自転車レーン設置
- 2) フリーサイクルや共同自転車などのシステムを導入
  - 共同自転車、サイクルシェアリングシステムの導入
- 3) 地域資源を活かす魅力ある歩行空間とネットワーク形成
  - キャンパス軸や緑園の道など歩行者ネットワークの強化

### 方針 3

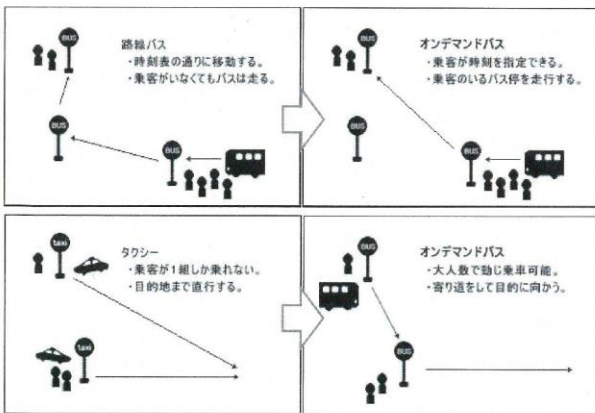
#### 自動車利用を減らすため総合的な施策を展開する 『自動車分担率の10%低下』

持続可能性の高い都市を実現するために、安易な自動車利用を低減するための取り組みの実施と、利用する際には環境に配慮した自然エネルギーの活用等を促進する。さらに市民へのPRによる意識向上を図る。

#### 重点施策

- 1) カーシェアリングの実施などにより自動車利用を削減
  - カーシェアリングの実施、P&Rの導入検討
- 2) 環境に優しいエネルギーの利用
  - 電気自動車の利用促進やBDFの導入

■実証実験が継続しているオンデマンドバスの仕組み



出典：東京大学設計工学研究室HP  
<http://www.naki.t.u-tokyo.ac.jp/demandbus/ODBEX.html>

■自転車先進的の地域における自動車削減等の交通分担目標  
および柏の葉エリアの自動車分担率削減目標案

	基準		自転車	自動車	バス・公共交通	徒歩
オフィス (デンマーク)	分担率	現況 1998	20%	50%	30%	—
		目標 2005	24%	46%	30%	—
ティルブルグ (オランダ)	トリップ	現況 1990	36%	36%	3%	25%
		目標 2000	42%	32%	6%	25%
		増減率	20%	-10%	100%	0%
ニトラインヴェストファーレン州 (ドイツ)	トリップ	自転車トリップ20%以上にする				
柏市 (PT調査)	分担率	現況 1998 (市全体)	17.2%	36.5%	1.4% (バス) 23.1% (鉄道)	21.8%
		目標案 2018 (柏の葉エリア)	+10% 27.2%	-10% 26.5%		

出典：最近のヨーロッパ自転車政策1998.3 (財) 自転車産業振興協会



# 目標 5

## キャンパスリンクによる柏の葉スタイルの創出

環境に優しく健康に暮らす柏の葉スタイル、また豊かな交流や文化芸術を創造する

### 方針1

#### 健康で快適な生活空間と環境行動「柏の葉スタイル」を定着させる

都市的魅力だけでなく自然的魅力をも享受できる環境の中で、大学と連携して先進的な健康管理や環境行動のためのプログラムを構築し、環境に優しく健康で快適に暮らすライフスタイルとしての「柏の葉スタイル」を実現し、発展させる。

#### 重点施策

- 1) 「健康・環境行動」へのアフォーダンス※を高める空間の整備 — 公園や公共施設の利用促進と大学や公的施設の一般開放
- 2) 「ケミレス・タウン」の展開 — ケミレスタウンの実験成果を生かした健康指向住宅の普及
- 3) 予防医学による新しい健康づくり — 千葉大などが連携する予防医療モデルの構築と普及
- 4) 先端技術による健康増進システムを整備 — 東大などが連携する10坪ジムなどの健康モデルと普及

※アフォーダンス：人の行動に対する影響や行動のきっかけを与える、環境や空間の性質や構成

### 方針2

#### 多様な住み方、暮らし方ができる住宅を供給する 『キャンパスリンク住宅を10%』

家族世帯はもとより、キャンパスに関連した研究者や学生、留学生、シニア向けなど、キャンパスライフの各ステージの変化に対応し、短期・中期・長期、定住といった時間軸にも対応できる住まいや多様な住宅タイプを供給するための開発誘導を行う。

#### 重点施策

- 1) 大学等の研究者やクリエイター向けに「居住支援制度」を整備 — 若年向け住宅の整備、優遇制度による居住誘導
- 2) 大学教育と連携したプログラムがついた住宅の供給 — カレッジリンク・シニア住宅の開発
- 3) 駅前地区の住宅開発では10%以上のキャンパスリンク住宅 — 新規大規模開発地におけるキャンパスリンク住宅の誘導

### 方針3

#### 農や食の文化を育む空間と生活を充実させる

地元農家の協力と地域住民の参加のもと、農協、大学等とも連携し、身近に存在している農地の維持・活用と、地産地消を基本とした環境の中で、食を通じた健康と食文化の醸成を通して、体験や交流、新たな文化を育み、豊かな生活を実現する。

#### 重点施策

- 1) 「アグリビレッジ」など農を通じた生活空間を整備 — 菜園付き住宅の供給、市民菜園やクラインガルテンの整備、優良農地の保全と新しい営農方法の確立
- 2) 農や食をテーマとする市民の学びの場 — 食に関する専門学校の誘致、ワンデイシェフ等の教育の場

#### ■TX沿線の生活スタイルと“柏の葉スタイル”



#### ■千葉大学ケミレスタウンプロジェクト

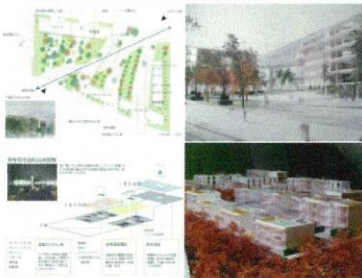
快適な住環境の指針を提案するため、有害物質を低減した、シックハウス症候群を起こしにくい実証実験施設を建設し、実際に入居生活してもらったシックハウス症候群の家族に及ぼす影響に関する官民共同研究



#### ■千葉大学学生提案による大学教育と連携したプログラムが付いた住宅イメージ

大学で学びたい人に向け、学習プログラムの提供等、大学が連携する住宅

千葉大学と連携した環境健康生活（キャンパスライフ）



#### ■農を通じた豊かな生活空間

菜園付き住宅のイメージ(都市環境デザインスタジオ2006より)



# 目標 7

## 質の高い都市空間のデザイン

先進の環境空間計画とデザインマネジメントにより都市と生活の質を高める  
“いい街がいい人(研究者、生活者)を呼び”

### 方針 1

#### キャンパスのように緑溢れる自由な都市空間をつくる

柏の葉エリア全体を「緑のグラウンド」と捉え、住む人訪れる人誰もが自由に活動を展開できる、建物と外部空間が混じり融合した、キャンパスのような空間と街並を形成する。

#### 重点施策

- |                         |                                   |
|-------------------------|-----------------------------------|
| 1)大中小の多様なオープンスペースの設置と連続 | —— 公共空間(公園や広場、施設)デザインコンペを実施する     |
| 2)柏独自の魅力的な街並形成のための規制    | —— アーバンデザイン方針やデザインガイドライン、デザインレビュー |
| 3)ランドスケープデザイン*の徹底       | —— 地域の自然条件を踏まえた植栽の種類や配置の決定        |

\*ランドスケープデザイン:人工環境と自然環境の調和を目指し、外部空間をトータルにデザインすること

### 方針 2

#### 大学が街へ広がる学園の道(University Axis)をつくる

柏の葉キャンパス駅、千葉大学、東京大学を結ぶL型の都市空間を「University Axis」とし、それに沿って両大学の施設を配置し、隣接施設も協働して、国際キャンパスタウンの象徴となる空間を形成する。

#### 重点施策

- |                            |  |
|----------------------------|--|
| 1)キャンパスタウンの風格と賑わいを表出する駅前通り | —— 道路空間の改善と沿道の街並みの形成                               |
| 2)大学内に街へ開いた都市空間を整備する       | —— 千葉大正門の地域連携空間などゲートづくり<br>東大インターナショナルロッジによる街並みの形成 |

### 方針 3

#### 緑の中に多様な活動が見える緑園の道(Green Axis)をつくる

こんぶくろ池公園、147・148街区、駅、151街区を貫き、区画整理区域の小学校・公園用地に至る経路と沿道部分を「Green Axis」とし、親密で快適な環境健康都市を象徴する都市空間を形成する。

#### 重点施策

- |                  |                                      |
|------------------|--------------------------------------|
| 1)新しい公共空間を整備する   | —— 緑園の道にある公園と学校は環境をテーマに質を高くデザインする    |
| 2)屋外の生活空間を形成する   | —— 緑園の道には市民などの活動が見えるように施設を配置する       |
| 3)生態系を回復する森を形成する | —— 緑園の道に沿う建物や道路の十分な緑化と広場など活動の空間を提供する |

### 方針 4

#### UDCKを中心にアーバンデザインを実現する

柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)を核に、キャンパスタウンにふさわしい空間計画を定め、仕組みとプロセスとともに実現する。

#### 重点施策

- |                        |   |
|------------------------|---|
| 1)柏の葉地域のマスターデザインを定める   | —— 国際キャンパスタウン構想を具体的に地域や市民と共有する<br>柏市景観形成重点地区の拡大などの条例化                                     |
| 2)公有地や公的施設の先導役割とデザイン水準 | —— 個別事業でのアーバンデザインの実現<br>区画整理区域内での機能やデザインの誘導<br>保留地及び公有地の売却条件づくり<br>デザインガイドラインやデザインレビューの体制 |

### 方針 5

#### アーバンデザインを柏市域や沿線地域へ広める

柏の葉キャンパス駅周辺を中心に展開するアーバンデザインを、都市構造の文脈に沿って、周辺市街地やTX沿線各地、柏市市域全体に連鎖・波及させる。

#### 重点施策

- |                       |   |
|-----------------------|---|
| 1)郊外の住宅や商業施設の柏モデルをつくる | —— ロードサイド開発の新しい環境デザイン<br>戸建住宅や団地の再生型の環境デザイン |
| 2)新しい公共空間を実現する        | —— ユニットハウスを利用した市民利用施設の設置                    |

## 付録：普及啓発絵本

- ・第1巻：宜野湾市の歴史
- ・第2巻：宜野湾市の自然と文化
- ・第3巻：普天間飛行場のホント
- ・第4巻：普天間飛行場跡地利用への取り組み
- ・第5巻：全体計画の中間とりまとめ

# 宜野湾市の歴史

マンガでわかる、みんなで考える!

# 1

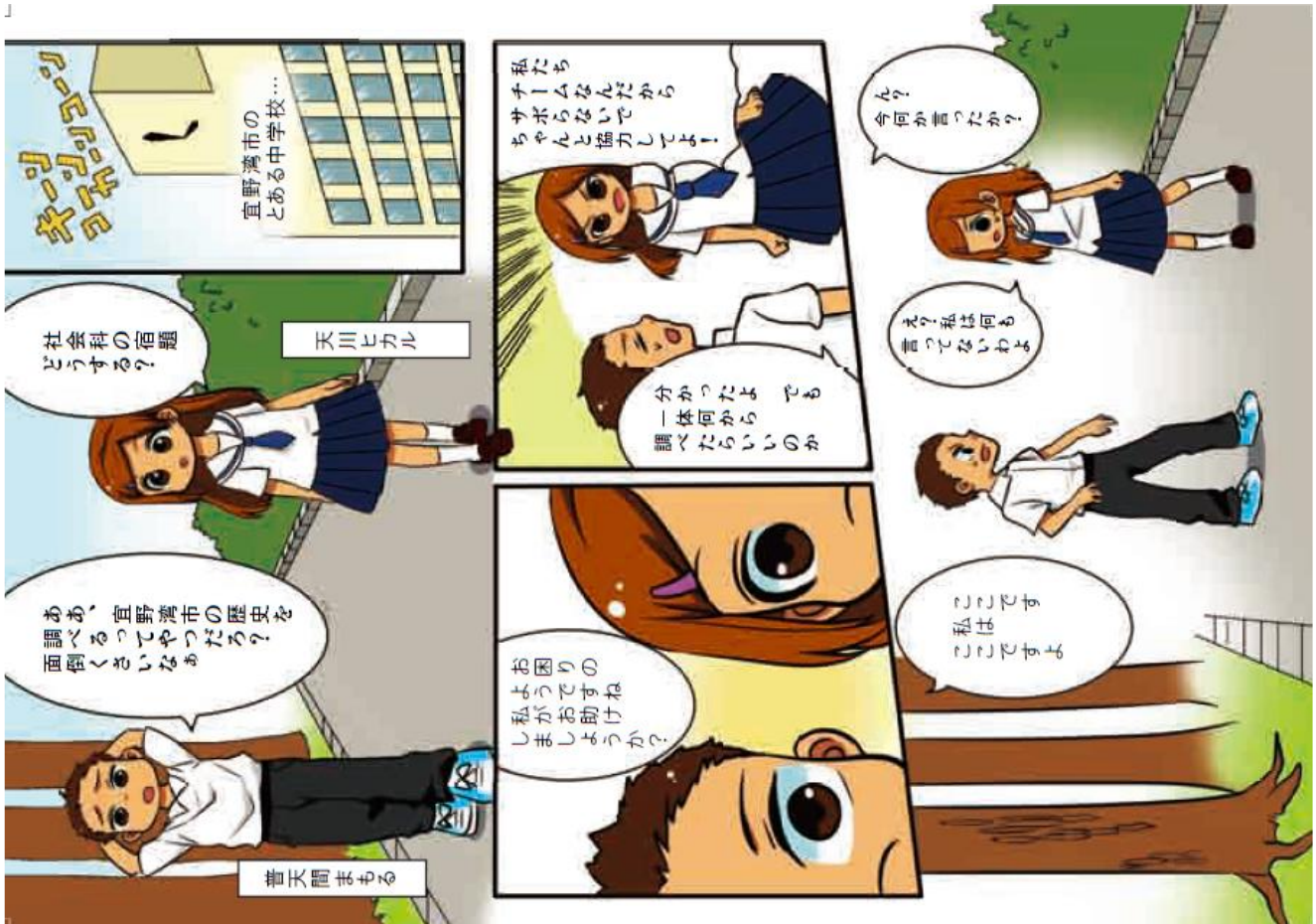


市長伝説の妹 天ちゃん

普天間まおる

天川ヒカル

宜野湾市役所



天川ヒカル

普天間まおる



羽衣伝説の天女  
ちゃん

今からおよそ六八十年前  
 謝名村に住む奥間という者が  
 ある日、畑仕事を終えて手足を洗おうと  
 「森の川」に立ち寄ると  
 美しい女が沐浴していた。  
 奥間が木陰から覗くと  
 きれいな羽衣が松の木にかけてあった。



この世のものとは思えないほどキレイな人だ！



私は天女。あなたたち  
 富野湾の中学生でしょ  
 それなら  
 私のこと知ってるわよね？



前は、  
 習ったじゃない！



奥間は素早く  
 羽衣を奪むらに隠した。



羽衣がなければ  
 天に帰ることができません

奥間は素早く羽衣を奪むらに隠した。  
 天に帰れない、と泣き腫れる天女を  
 奥間は家に連れて帰った。



やがて二人は夫婦となり  
 一男一女が生まれた。



あっ!?

産まれた子どもは  
 立派な大人になって、  
 中国と貿易を始めて、



家のお母さんが  
 いればば  
 心強いや

富野湾のことを  
 私は何でも  
 知っているから  
 任せて！



ある日、  
 家の裏に隠してあった  
 羽衣を見つけた天女は  
 天に帰っていきました。

行かないでくれ！

お母さーん！



先進国の高度な文化と  
 鉄などを取り入れた  
 農耕風などを開発し、  
 琉球王国に繁栄をもたらし、  
 のちに、中山王黎庶王となつた。



まずは  
 富野湾の歴史を  
 迎って  
 いきましょう

よろしく  
 お願いします



宣野渡村の西側は  
那覇から  
嘉手納まで  
軽便鉄道の  
嘉手納線が走り、  
村内には  
大謝名・真志喜・大山に  
駅があった。

サトウキビなどの  
農作物を嘉手納まで運んだり  
販路へ農作物を売りに行くための  
交通手段としても  
利用されていたよ。

時速15kmで  
ゆくり走る汽車は  
『アフィー、アフィー』と  
汽笛を鳴らしながら走っていたのよ。  
でも、沖縄戦による破壊で  
30余年の歴史に幕を閉じたのね。

1945(昭和20)年3月26日

米軍は慶良間諸島に上陸

4月1日には沖縄本島の  
西海岸に上陸した。

米軍は沖縄本島を  
南北に分断しながら  
進攻した。

4月6日頃から始まった嘉敷の戦闘では、  
日本兵が高橋樁を抱えて戦車へ  
体当たりする肉弾戦法などで  
応戦したことで、米軍は苦戦した。  
嘉敷高地は、米軍の記録によれば  
「いまましい丘」と呼ばれていた。  
嘉敷の戦闘は約20日間にも及び、  
日米両軍に多数の死傷者が出た。

激しい嘉敷は、  
戦地だったんだね

高橋樁は全住民は、  
1944(昭和19)年の  
人口(1万3635人)に対し、  
36.7%の269%の  
解決策を出したよ。

こんなに多くの  
犠牲者がいたんだね

民間人の  
犠牲者はこんなに  
多かったんだね

米軍は日本本土侵略のため、  
沖縄を激戦で軍事基地化する  
方針を打ち出し、島の周辺から  
人々を立ち退かせた。  
立ち退かされた人々は石川や仲場の  
6号橋から北の洞窟に寄り集まり、  
民間人の収容所は北部に集中した。

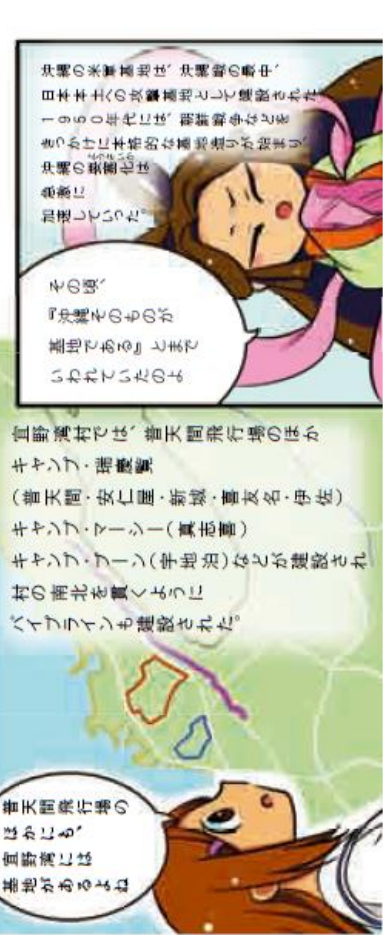
しんじ(日本政府関係者)  
米軍は沖縄を主要基地と  
位置付けるし、引き寄せは大きな  
軍用地を確保した。  
除染計画の推進も促した  
「敵軍収容所」は、  
人の移動が困難に行われた。

高橋樁は、米軍上陸の  
2ヶ月前に、現在の  
宣野渡地区の裏に広がる  
野原を掘削されたのよ

「敵軍収容所」では、  
人々は狭い狭い部屋や  
テントに押し込まれた。  
毎所に4世帯、一室に  
2〜3世帯など、10の狭い  
たくさん異なる家族が  
住んでいたり、時には多層小屋や  
1〜2階小屋(ヤマト)に  
詰め込まれていた。

こんな狭い家で  
たくさんの方が  
生活していたのね

豚小屋にも  
住んでたなんて  
想像できないよ







マンガでわかる、みんなで考える!

# 宜野湾市の自然と文化

## 2



普天間飛行場

天川ヒカル

天ちゃん

宜野湾市役所

宜野湾市を  
探検しよう!

身近な自然と  
文化を求めて...

普天間まもる  
スポーツ、マンガ、ゲームが  
大好きな中学2年生。幼なじみのヒカルと一緒に宜野湾の歴史を勉強中

天川ヒカル  
生徒会に所属している。しっかり者の中学2年生。明るい学校生活を満喫している

天ちゃん  
宜野湾に伝わる逸話「羽衣伝説」の天女。宜野湾の歴史に詳しく、このまちの未来を見守っている。学校の課題で宜野湾の歴史を調べている。2人を優しくナビゲート

現在はすでになくなったものを合わせると宜野湾には100以上の湧き水があること知ってる？  
宜野湾は、湧き水の多い特徴をもった地形と地質なのよ

特に大山には多くの湧き水があって田芋畑やそこにすむ生き物たちを潤しているの

えっ？  
宜野湾の自然？  
どこも建物があって自然なんてないんじゃないの？

ああ！  
今日は宜野湾の自然や文化について学びましよう！

そんなことないわよ  
公園もあるじゃない

湧き水とは、地下水が自然の状態で湧き出している場所  
また湧き出している水のこと。  
宜野湾市は、島尻層群や琉球石灰岩、沖積層の3つの地層が分布している。  
琉球石灰岩は水を通しやすくしみ込んだ水は島尻層群などの水を通さない地層の上を流れ湧き水となつて出てくる。

宜野湾は、サンゴ礁、沿岸流によつて運ばれた粘土や砂丘陵をはじめ海岸段丘、海岸低地、カルスト地形、サンゴ礁などの地形が発達している。



湧き水は  
畑の周りだけでなく  
いろいろな場所にあるのよ



私の伝説が生まれた場所ね

深谷泉  
湧き出した地下水が  
地面を削って  
小さな谷を  
作っている湧き水。  
真志喜の  
ムンヌカー(森の川)  
などがある。



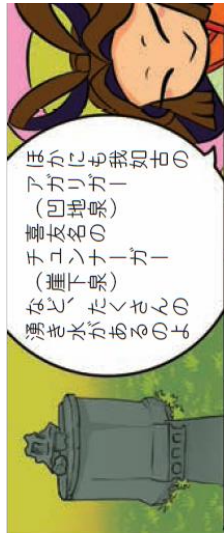
鍾乳洞の中にも  
湧き水ってあるんだね

洞穴泉  
地下の洞穴(鍾乳洞)に  
入って水を汲む湧き水で、  
地表からは見えない。  
新城のアラグスクガーなどがある。

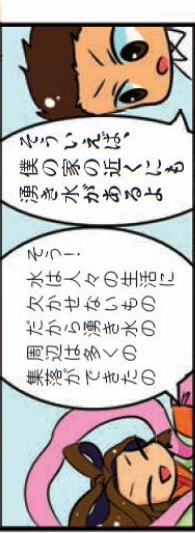


ここ行っただとある。  
たくさん水が出ていたわよ

崖泉  
崖の途中にある湧き水で  
位置的に地下水系の  
下流末端にあるため  
湧き水量は多いよう。  
我如古のヒージャーガー  
などがある。



ほかにも我如古の  
アガリガー  
(凹地泉)  
喜友名の  
チユンナーガー  
(崖下泉)  
など、たくさん  
湧き水があるのよ



そういえば、  
僕の家付近にも  
湧き水があるよ

そう！  
水は人々の生活に  
欠かせないもの  
だから湧き水の  
周辺は多くの  
集落ができたの



カーウリー(川下り)  
子どもが生まれると、  
産泉に誕生や健康祈願を報告  
産泉の水を持ち帰って  
赤ちゃんの額につけ、  
子どもの健やかな成長を祈る



死水  
人が亡くなったとき、  
産泉から水を汲んできて  
死者の口に含ませたり、  
体を拭いたりする。  
産泉の水は、  
生命を再生する力があると  
信じられていた。



お正月の大切な  
行事にも  
湧き水が  
使われているのよ

ワカミジ(若水)  
元日の早朝、  
まだ暗い時間に  
産泉から水を汲んでくる  
この水を「ワカミジ」とい  
火の神などに供えた後、  
顔や手足を洗って  
身を清める。  
神聖な産泉の水は  
霊力(セジ)があると  
考えられていた。  
集落で行事などの際には  
拝みの場所ともなり、  
地域の人々が協力して  
清掃なども行っていた。



今でも、  
僕たちの生活に  
湧き水は  
欠かせないもの  
なんだね

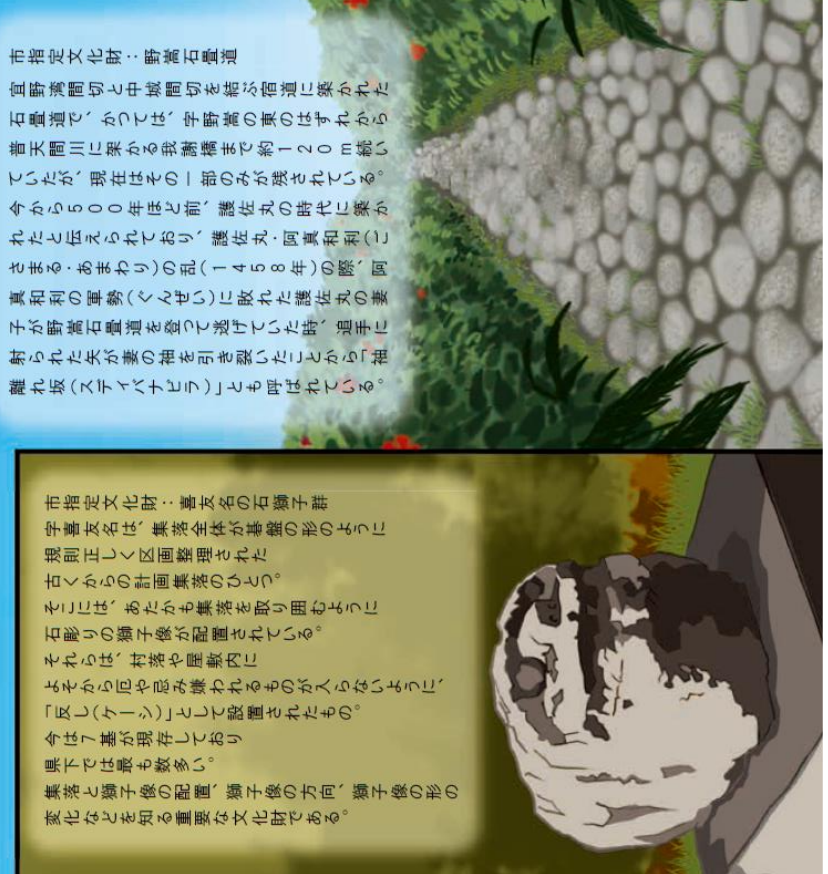
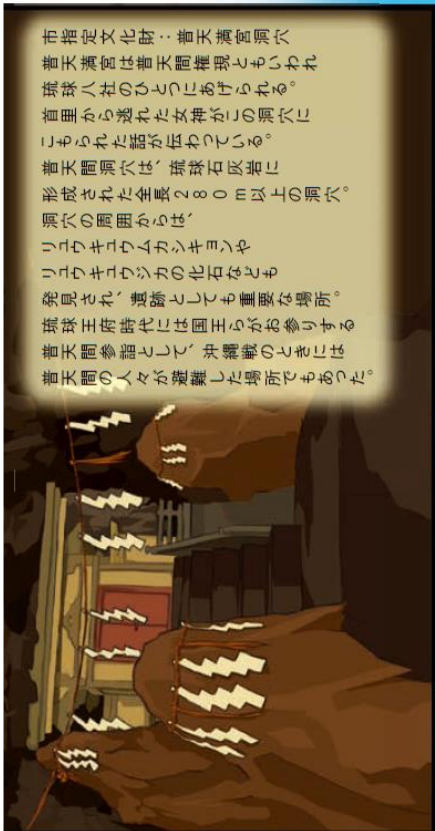
上下水道が発達した現在  
湧き水は生活用水として  
利用することは  
ほとんどなくなつた。  
しかし、  
農業用水として、  
収穫された田芋を洗つたり  
農作業の汚れを落とすのに  
利用されている。  
また、畑への水まきや  
学校の花壇用水、  
公園の噴水などにも  
湧き水が使われている。

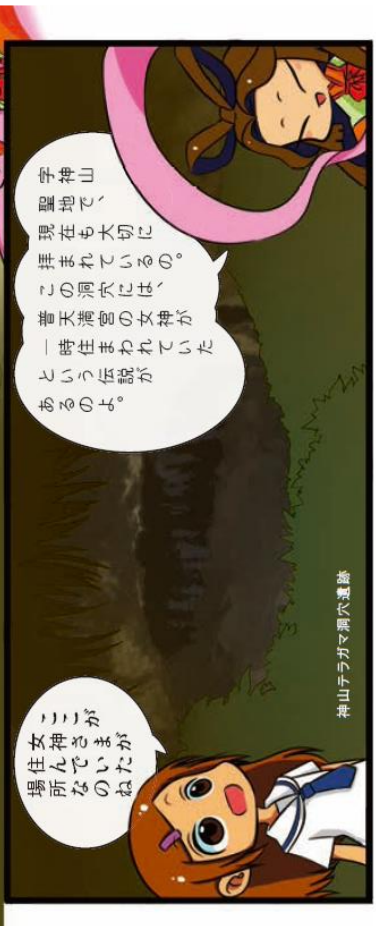
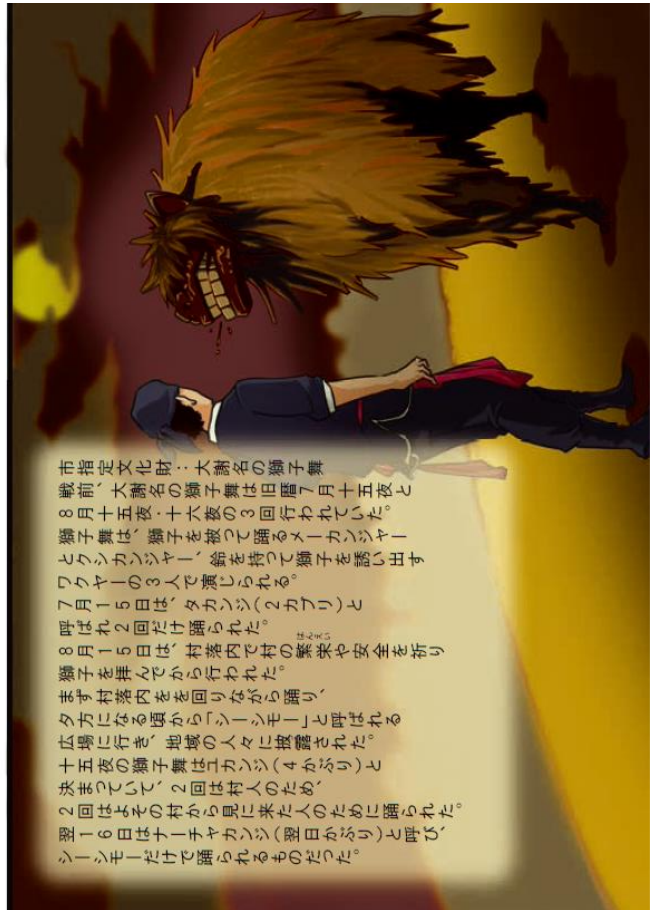


湧き水は、  
人々の生活に深く  
関わっていたのよ

各集落には産泉  
(ンブガー・ウブガー)  
と呼ばれる共同の湧き水があり  
この産泉は集落の源泉として  
崇拝されている場所。







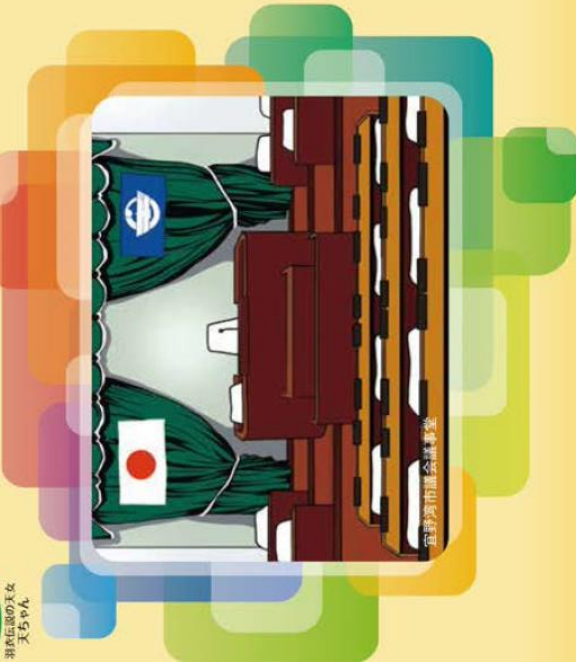
さてさて、  
次回は？



神代伝説の天女  
天弓やん

### ●目からウロコの普天間飛行場シリーズ 第3巻 「普天間飛行場のホント」

宜野湾市の25%を占める広大な「普天間飛行場」を、  
二人の中学生と不思議な天女が、わかりやすく紹介します。



◎第2巻 参考資料  
沖縄県宜野湾市教育委員会文化課「きのわん自然ガイド」2002年



宜野湾市役所  
基地対策部 基地跡地対策課 基地跡地対策係

〒901-2203 沖縄県宜野湾市野嵩一丁目1番1号 電話(098)893-4401(直通)

きのわん 検索

何て書いて  
あるんだろう？  
不思議な模様だね



線刻石板

神山テラガマ  
洞穴から出土した  
不思議な石板で、  
表裏面には  
文字のような線刻が  
あるんだけど、  
未だに解読されていないの



普天間飛行場の  
下にはたくさんの  
洞穴があつて  
拝所にもなつて  
いるのよ。



洞穴内の拝所

この石は何？

あれは  
香炉といつて  
沖縄の伝統的な  
拝所にはたいてい  
石で造られた香炉が  
安置されているの

料字新城の  
に井戸で、古い時代  
端麗側から  
村を移した時に  
掘り当てたことに  
いわれているわ



新城ガ一

宜野湾には、  
大切に守らなきゃいけない  
自然や文化財がまだたくさん  
残っているのよね



基地返還後の発掘調査も  
気になるし、もっと  
宜野湾市の歴史と文化を  
知りたくなってきたな



# 普天間飛行場のポイント

マンガでわかる、みんなで考えよう!



オレたちも  
勉強するぜ!

みんな  
普天間飛行場を  
調べましょ。

普天間飛行場

天川ヒカル

宜野湾市役所



天ちゃん

「宜野湾に伝わる逸話  
『羽衣伝説』の天女。  
宜野湾の歴史に詳しく、  
このまちの未来を思っている。  
学校の課題で宜野湾の  
歴史を調べている2人を  
優しくナビゲート。」

天川ヒカル

生徒会に所属している  
しっかり者の中学2年生。  
明るい学校生活を  
満喫している

普天間まもる  
スポーツ、マンガ、ゲームが大好きな  
中学2年生。幼なじみのヒカルと  
一緒に、宜野湾の歴史を勉強中。

今日は  
普天間飛行場について  
勉強しましょう。  
これが今の  
普天間飛行場よ

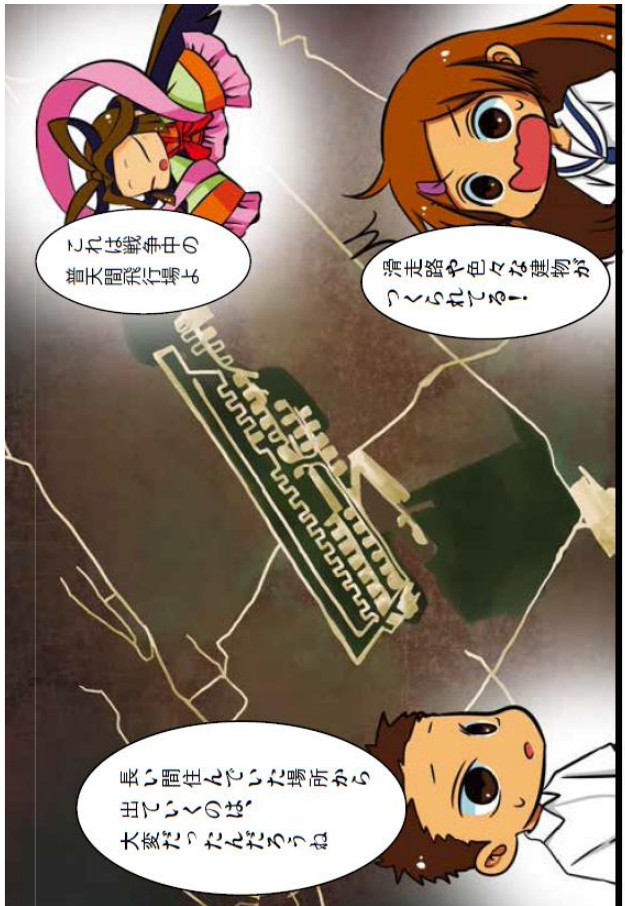
広さは  
約481ヘクタール  
宜野湾市の約25%を  
占めているの。  
宜野湾海浜公園の約20倍  
那覇・新都心の約2倍の  
広さがあるよ

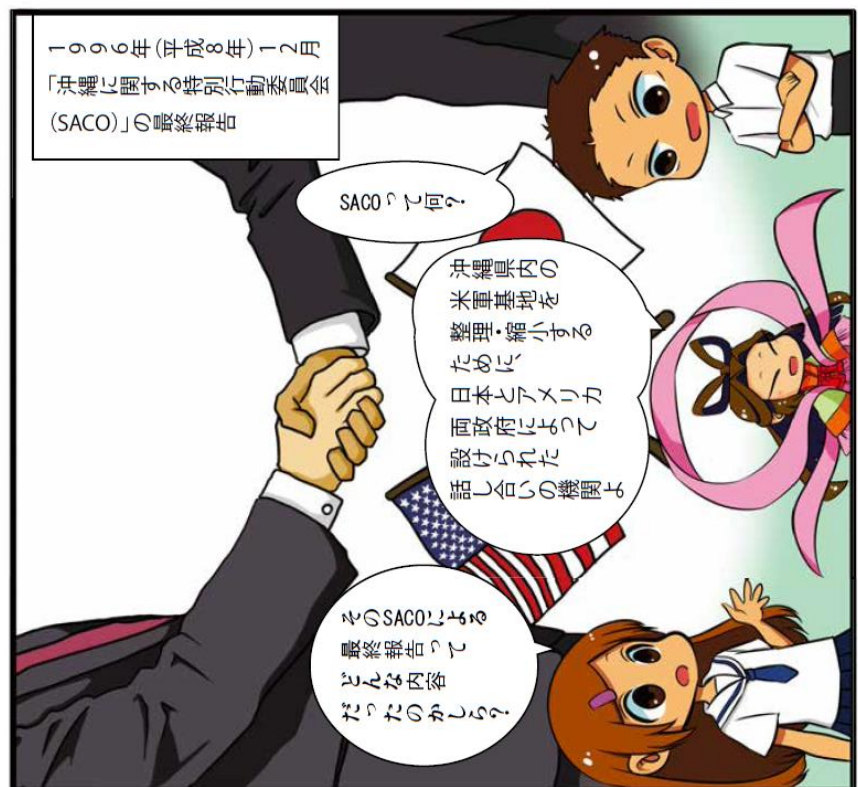
すごく広いなあ

どのくらいあるんだろう?













マンガでわかる、みんなで考える!

# 普天間飛行場 跡地利用への取り組み

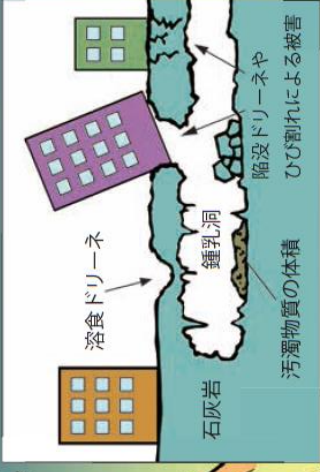
## 4



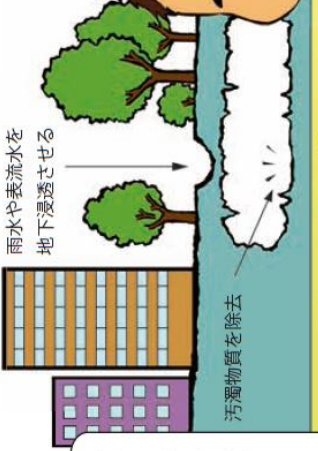


普天間飛行場の  
周りにはたくさんの  
鍾乳洞があるのよ。  
その鍾乳洞の場所を調査  
したらと土地開発を始め  
ると鍾乳洞の穴に落ちて  
ていって鍾乳洞が崩れる恐れ  
があるわね。  
それに鍾乳洞の中に、  
汚濁物質などが溜まって  
いるとそれが地表に  
あふれ出る危険性も  
考えられるわ。

鍾乳洞の場所を  
きちんと調べてから、  
開発を始めたら  
いいんじゃないかしら？



でもが  
ヒカル！



良かったあ。  
これで  
安心したよ

大変だ！  
どうしよう？

十分な調査を怠れば、  
いろいろ計画を立てて  
開発を進めることになるわね。  
例えば、  
鍾乳洞の上には緑を植えて、  
動物は土壌からしっかりと排泄物に  
触れない、地下水がある鍾乳洞の  
周りは工事や掘削はたごまらね。



普天間飛行場の  
移転や跡地利用に向けての  
準備が進んでいることを  
学んだけど、飛行場の中に土地を  
持っている人たちもいるんだよね

地権者のことね

そう、その地権者たちの  
意見ってどうなってい  
るのかな？

そうよね  
自分たちの土地が  
どうなるのか  
心配だと思われ

なかなか鋭い指摘！  
地権者の人たちは  
普天間飛行場の跡地利用に  
ついてさまざまな取り組み  
をしているわよ。  
今日はそのことを  
勉強しよう

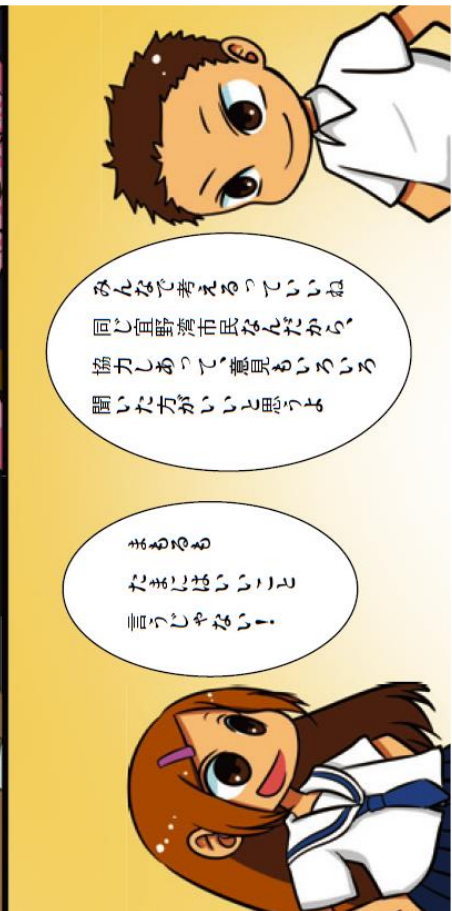
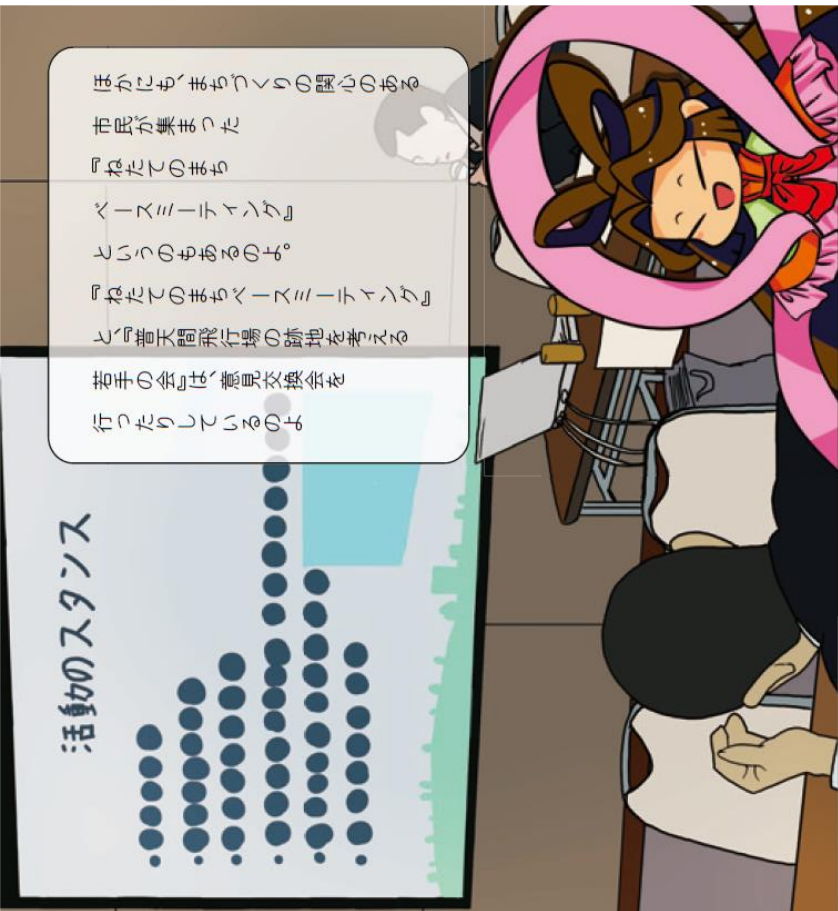
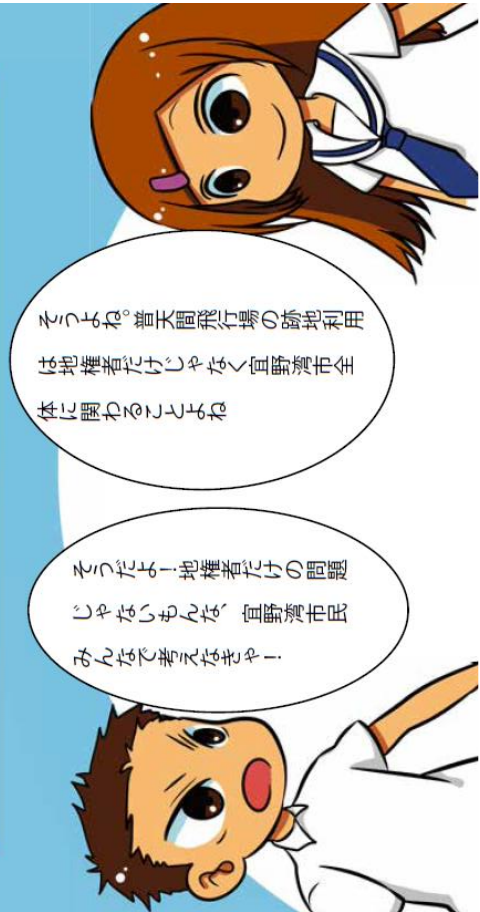
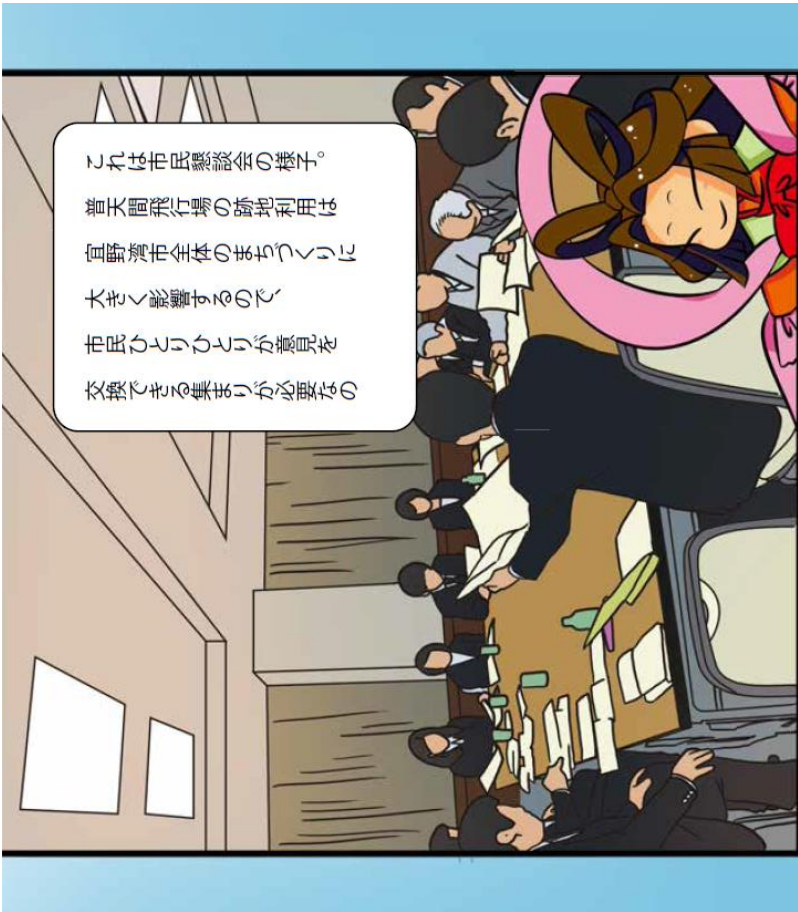
まずは、地権者懇談会。  
この懇談会では、たくさんの  
地権者の人たちの意見を聞いて、  
地権者の人たちがどうしたいのか、  
跡地利用に役立てるために  
意見をまとめているの。

へえ。  
ちゃんと地権者たちの意見が  
取り入れられているんだね

3000人を超える  
地権者の方がいるのよね











3巻6話の天女  
美ちやん

さてさて、  
次回は？

●目からウロコの普天間飛行場シリーズ 第5巻  
『普天間飛行場跡地利用  
『全体計画の中間取りまとめ』』

跡地利用を決める話し合いや計画づくりの取り組みを  
二人の中学生と不思議な天女が、わかりやすく紹介します。

緑ゆたかな  
公園

インフラ整備  
された道路

跡地利用の取り組みを考える

◎第4巻 参考資料  
 宜野湾市 基地対策部 基地跡地対策課 「地権者支援情報誌ふるさと」  
 宜野湾市 基地対策部 基地跡地対策課 「普天間飛行場跡地利用ニュース」

宜野湾市役所  
基地対策部 基地跡地対策課 基地跡地対策係  
 〒901-2203 沖縄県宜野湾市野嵩一丁目1番1号 電話(098)893-4401(直通) きのわん 様室

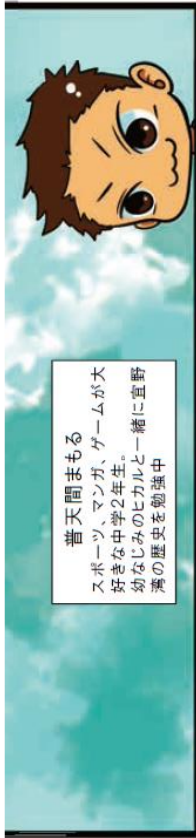
# 普天間飛行場跡地利用

## 『全体計画の中間取り』

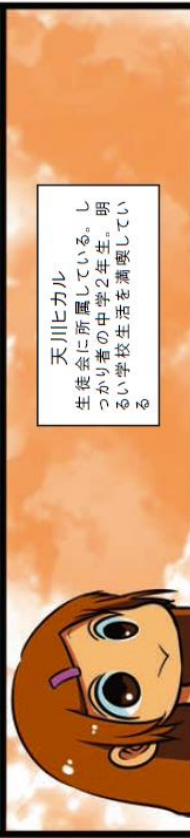
マンガでわかる、みんなで考える!

## まとめ

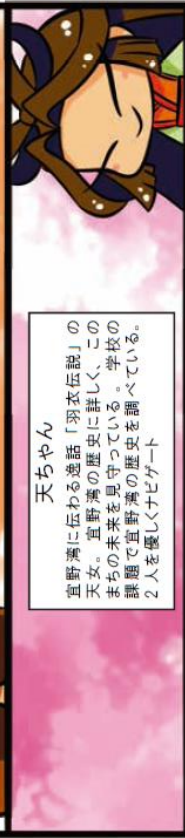
# 5



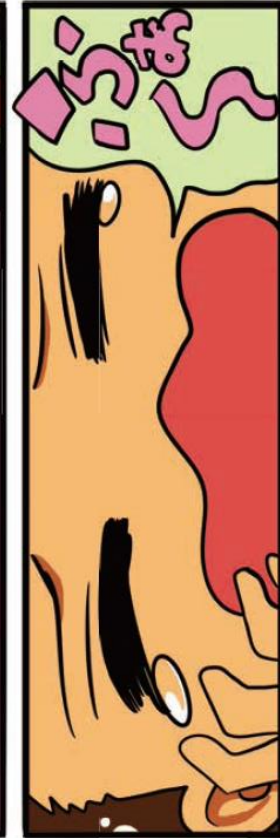
普天間ももる  
スポーツ、マンガ、ゲームが大好きな中学2年生。幼なじみのヒカルと一緒に宜野湾の歴史を勉強中



天川ヒカル  
生徒会に所属している。しっかり者の中学2年生。明るい学校生活を満喫している



天ちゃん  
宜野湾に伝わる逸話「羽衣伝説」の天女。宜野湾の歴史に詳しく、このまちの未来を見守っている。学校の課題で宜野湾の歴史を調べている。2人を優しくナビゲート



**事業の準備・実施**

合意形成の実現に向けた取り組み  
意向反映・合意形成  
地権者・宜野湾市民・沖縄県民の意見をまとめる

**事業の準備・実施**

計画づくりに向けた取り組み  
各分野別の計画  
土地利用及び機能導入  
都市基盤整備/環境づくり  
周辺市街地整備との連携

**事業の準備・実施**

跡地利用の実現に向けた取り組み  
実現性の検証  
跡地利用の実現の方法の模索  
計画実現の可能性の検討

跡地利用基本方針

跡地利用基本方針

跡地利用基本方針

でも、その中間取りまとめて何なの？

それじゃ、これが参考になるんじゃないかしら。普天間飛行場跡地利用計画の中間取りまとめよ

早く言っときな！

跡地利用の実現に向けて、これまで沖縄県と宜野湾市が取り組んできた内容を、いったんまとめたものなのよ

中部縦貫道路

宜野湾横断道路

宜野湾市には、貴重な文化財や自然がたくさん残っているって、前に勉強したわ

そう。新しくまちづくりを進めるときは、住宅地や交通、それに文化財や自然環境など、いろいろな分野について考えないとけならわね

そうね。人は新しくまちづくりをするときって、まず何をしたらいいと思う？

まあ道が必要よね

人が住むには家が必要だし、友だちと遊べる公園も欲しいなあ

宜野湾市には、貴重な文化財や自然がたくさん残っているって、前に勉強したわ

そうよ。よく覚えていたわね。いろいろな視点で街づくりを進めていく必要があるの

僕たちも一緒になって考えよう必要があるよね

まず①の「合意形成の実現に向けた取り組み」。これは、跡地利用の方向をより具体的に提示して、地権者と宜野湾市民、そして沖縄県民の関心を高め、3者の意見をまとめるための取り組みよ

②は計画づくりに向けた取り組み。基本方針をもとにした全体の大きな目標に向かって、各分野がそれぞれ取り組んでいるの

各分野って何？

